

自然体で生きる

○…NHKテレビ・ラジオ便局長を務めた。当日は局から「昔を思い出して涙が内にあるサロンで、童謡を出てきた」との手紙をもらって涙が止まらなかつた。4月21日、中心としたミニコンサート「とても嬉しかった」との郵政記念日に1日橋本郵便局も行った。聴いてくれた人、感慨にふける。

人物風土記

題字は
相模原市長



●NHKテレビ・ラジオ体操ピアニストとして活躍中の作曲家

加藤 由美子 さん

西橋本在住

○…ピアノを弾き始めたのは2歳半。おもちゃのピアノを夢中で弾いていた。作曲を志し小学5年生から専門の先生につき、猛特訓した。スポーツは大好き。中学時代は陸上部に所属。「スピードスケートの選手だった母親から「何事も基礎体力が大事」と言われまくった」と爽やかに微笑む。持ち前の行動力と熱意で文武を両立させ、東京芸術大学・作曲科へ進学した。

○…数年前に他界した映画好きの父の影響もあって、自ら志願して、映画の音楽を担当したこともある。「映像に合わせて音楽をつけることは楽しかった」と振り返る。「火曜サスペンス劇場」の挿入曲を手がけたこともあるそう。昨年ドラマと笑いのある落語や小唄をあつめた歌曲集「小唄唄」を刊行。「好きなことを仕事にできる幸せを感じています」。

○…本番は生放送。いつも失敗が許されない状況で行われる。学生時代から続ける音楽教室「銀河会」の子どもたちにも「無理と云ってあきらめるのではなく、とにかくやってみる」と教えている。発表会の時には一人ひとりに役割を持たせる。「失敗しても、間違ってもやらせます。心構えが大事」と教育者としての一面もぞかせる。多忙を極める中、今年7月には川端康成原作の「童謡」をオペラにした作品の公演を控える。「楽しんでもらいたい作品ができました。一生作曲をしていきたいです」と目を輝かせる。これからも活躍に期待が高まる。